



「技術士」取得のススメ

西八條 正克

若手のページ

私は大学院で修士課程を修了後、化学メーカーに就職しました。入社してから約5年間、酵素を利用した医薬品中間体の製造方法の研究開発に携わっています。この春、これまでの実務経験を活かして「技術士（生物工学部門）」の資格を取得しました。今回は「技術士」について紹介したいと思います。

技術士とは？

よく知らない方も多いかと思いますが、技術士は理工系最高峰の国家資格と言っても過言ではありません。21の技術部門のいずれかの試験をクリアした「高度な専門的応用能力を備えた技術者」に与えられる資格です。生物工学分野ではまだまだ知名度は低いですが、土木・建設分野などでは重宝されている資格です。

さて、技術士になるメリットはなんでしょう？ 弁護士や医師の場合は業務独占資格であるため、資格を取得すると特定の業務ができます。一方、技術士は名称独占資格なので、特別な業務ができるわけではありません。私は技術士を取得して間もないため、この資格のメリットをまだ十分に実感していませんが、「自己研鑽の機会」と「人脈形成」がメリットに挙げられると思います。

技術士にはいくつかの義務や責務が課されています。その一つが「資質の向上」です。技術士は試験に合格してからも、時代の流れに合わせて知識を更新し、自分を磨かなければなりません。技術士になると、技術士会や各部門の部会などの集まりに参加することで、自分の興味がない技術や苦手な分野に関しても知識を得る機会が増えます。そして、関心がなかった分野にでも新たに興味を持つことや、自分の専門分野とのつながりを発見することがあります。また、そういった集まりに参加することで、自分の仕事の枠を超えてさまざまな人々と交流する機会ができ、「人脈形成」につながると思います。一口に「生物工学」といっても、その専門技術は医薬、食品、化学など多岐に渡ります。さらに企業だけでなく大学、自営の技術士事務所、特許事務所などさまざまな職場で働く方々と交流できることも魅力です。一つ不思議なことに、技術士として知り合った方々とは、とても親しみやすい感覚があります。仕事で出会ったなら恐縮してしまうような役職の方とでも気軽に話ができます。立場や年齢が違って、「同志」のような感覚があるのかもしれない。

技術士になるために

技術士になるためには、まず一次試験に合格しなければなりません（ただし、JABEE認定プログラム修了者を除く）。そして、一定の実務経験があれば、二次試験に挑戦することができます。二次の筆記試験を経て、最後に口頭試問があり、これに合格してやっと技術士を名乗る資格が得られます。いずれの試験も一夜漬けで合格できるような試験ではありません。特に二次の論文形式の筆記試験は難しく、幅広い生物工学分野の知識と問題解決力や応用力が必要です。このような技術士試験に向けて一人で勉強するのはなかなか大変です。自分の専門分野の知識だけでは合格は難しく、幅広い知識が必要です。苦手な分野を一人で理解するには骨が折れます。また、何より仕事をしながら、試験へのモチベーションを維持することが困難です。私の場合は、会社の先輩に誘われて「関西若手の会」という団体の勉強会に参加することで、効率よく二次試験対策をすることができました。「関西若手の会」は生物工学部門の技術士一次試験合格者の集まりで、化学、製薬、分析機器などのメーカーで働く技術者や研究者、大学の研究員や学生など多種多様な方が参加しています。また、技術士も自己研鑽のために継続的に参加しており、単なる試験対策の勉強会ではなく、新しい専門知識のアップデートと人脈形成の場にもなっています。すなわち、この会も前述した技術士のメリットを体感できる場なのです。2カ月に一度、勉強会を開催し、自分たちの仕事紹介や過去問や最新のトピックスについて各自調べて発表し、勉強しています。参加者はそれぞれ得意な分野が違うため、お互いに知識を補うことができる点が非常に有意義です。また、勉強会といっても堅苦しくなく気楽な集まりで、ときには雑談で脱線もしますし、勉強会後の飲み会も貴重な交流の場になっています。「関西若手の会」は会費や登録など一切不要です。いつでも参加者を募集しています。

生物工学部門の技術士はまだまだ認知度も低く、発展途上です。ただ、前向きに捉えれば今後、世の中の流れに合わせて発展する可能性があるとも言えます。私自身は、いつか技術士のネットワークを活かして新たな共同研究案件を企画するなど、自分が勤める会社の事業に貢献したいと思っています。最後に、この記事を読んだ一人でも多くの方が技術士に興味を持って頂ければ嬉しく思います。皆さんも技術士を目指してみませんか？

著者紹介 (株)カネカ フロンティアバイオ・メディカル研究所, 技術士(生物工学部門)

E-mail: Masakatsu_Nishihachijo@kn.kaneka.co.jp